

自動車産業を支える 表面処理技術 PR

電気自動車（EV）など環境対応車の普及に伴う車載電池の大容量化などにより、各製品の軽量化が重要度を増している。数多くの部品からなる自動車の製造において、デザイン性や機能性の向上、さらには軽量化の面でも各製品の表面処理技術は欠かせない。高付加価値と高い安全性を両立する表面処理技術は、自動車産業のさらなる発展を後押しする。

付加価値向上に貢献

めっき、塗装、溶 万点もの部品からなる射、熱処理などの表面 と言われている。デザ処理技術は、金属や樹脂性や機能性を高め脂などの素材に施するため、各部品にはさとして、防錆・防食や表 まざまな表面処理が施面硬化、耐摩耗性・絶 され、その技術は進化縁性・導電性・装飾性 し続けている。

の向上などが図れる。 自動車の軽量化に伴自動車は約2万—3 い、部品の合金・樹脂

化が進んでおり、金属特性を必要とする際にはめっきが施される。

例えば、自動車の内装にはアルミニウム調めっき、サテン調めっきを施したプラスチック成形品が多用される。

る。上品な光沢感や梨地状の質感が特徴で、指紋が目立ちにくく高級感を与えられる。そのほか、電子・半導体部品や、各種金属部材にもニーズに合わせた表面処理が行われ、付加価値へとつながっている。

昨今は六価クロムなどの有害物質を使わない処理方法など、地球や人に優しい表面処理技術の開発・提案も進んでいる。

太洋工作所

太洋工作所は半世紀以上にわたって、プラスチックめっきをはじめとする表面処理技術の向上に取り組んできた。金型の設計・製作から射出成形品の生産、めっき加工や塗装といった二次加工まで一貫生産体制で、顧客ニーズに対応。化粧品や家電、自動車など幅広い分野を支えている。

昨今は完全六価クロムフリーの新しいめっき技術「ノンヘキサ」の量産プロセスを確立。電気めっき工程はもちろん、エッチング工程においても六価クロムを一切使用せず、人と地球環境の未来に貢献する。国内3工場に加え、シンガポール、マレーシア、タイに生産拠点を置き、世界に高品位なプラスチック加飾部品を供給している。

プラスチックめっき？ めっちゃ得意ですよ

TAIYO

株式会社 太洋工作所

non-hexa

